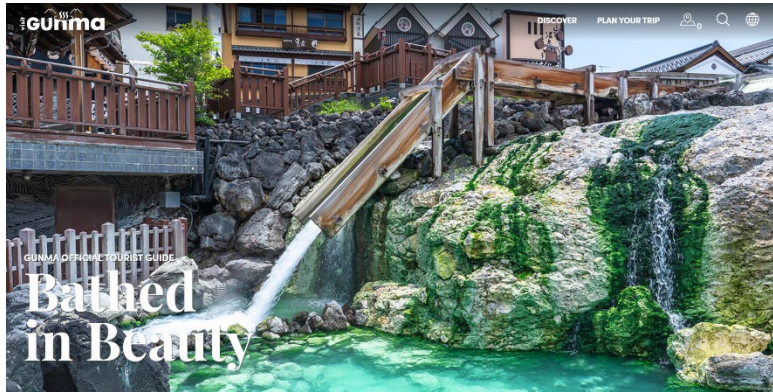


事業概要【群馬県インバウンド誘客推進事業】

申請者	群馬県ほか 2 自治体※						初回採択回	令和 3 年度第 1 回募集
事業計画期間	R3-R7年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	366,753千円 (76,948千円)
経費の種類	ソフト 事業	✓	拠点整 備事業		インフラ 整備事業		事業分野	観光分野
目的・効果	・アフターコロナを見据えた世界的な旅行需要の取り込みを図る ・群馬県の魅力を海外に発信し、具体的なインバウンド誘客の獲得につなげる ・情報収集から予約手配、移動・交通といった旅行プロセス全体におけるインバウンド対応能力の向上を図る ・量から質への転換を図る新たなマーケティングとプロモーションを実施する							
事業概要・ 主な経費	○観光関連施設サービス等高度化事業 新たな旅行スタイルやトレンドを踏まえたインバウンド対応能力を向上 ・観光関連施設サービス等高度化プロジェクト事業 6,020千円 ○ビジネスモデルの転換事業 量から質への転換に適した新たなマーケティングの確立を図るほか、高付加価値コンテンツを創出 ・新たな滞在スタイルデジタルプロモーション 37,184千円 ・台湾・中国向けファン・リピーター獲得事業 7,800千円 ・多言語対応観光発信サイトの拡充や機能追加 25,944千円							
地域の多様な 主体の参画	外資系ホテルの日本人や学識経験者に富裕層インバウンドのトレンドや地域の観光コンテンツの磨き上げに助言をもらいながら、インバウンド誘客を促進する。 インバウンド誘客に積極的に取り組む市町村をモデル地域として、事例の共有等、全県への普及を進める。						KPI	①外国人宿泊者数（+539,000人泊） ②外国人宿泊者 1 人あたり平均宿泊日数（+0.48泊） ③専用サイトセッション数（+1,019,104セッション） ④Gunma Excellence施設数（+63施設）

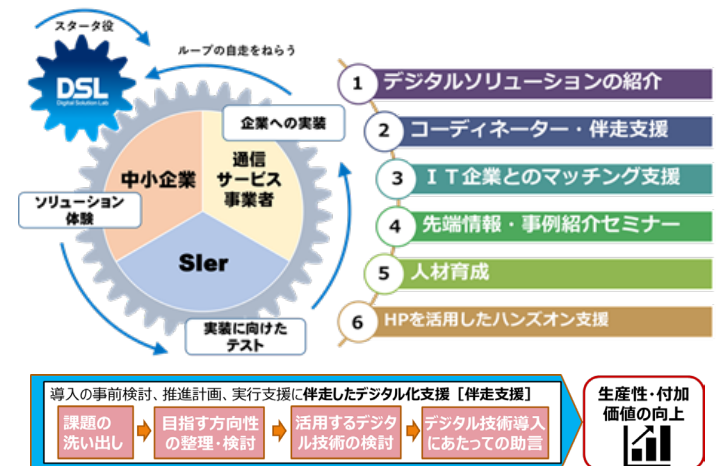
※群馬県、中之条町、みなかみ町の広域連携事業

事業概要【ものづくり産業DX推進事業】

旧制度（推進）

申請者	群馬県	初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	695,830千円（158,300千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	・「デジタルファクトリー」・「デジタルエンジニアリング」の導入を県内中小ものづくり企業においても広く実践することで、競争力を強化し、本県のものづくり産業の活性化を図る ・「ものづくり産業におけるDX」を実現していくための環境を構築し、人材育成等の各種事業を実施 ・デジタル技術の意義と活用を理解した経営者・エンジニア、県内中小製造業を育成する		
事業概要・ 主な経費	○実証環境構築のためのシステム構成の改修等 ・ハード整備 10,000千円 保守委託・通信費 10,000千円 ○企業のデジタル技術導入を幅広くハンズオン支援する ・デジタルファクトリー実証・コーディネート事業 22,074千円 ○デジタルファクトリー構築に必要なデジタル人材育成を行う ・AI活用人材育成講座 5,222千円 ・ロボット導入実証支援 1,474千円 ○企業の競争力を強化するためデジタルエンジニアリングの導入支援 ・デジタルエンジニアリングコーディネート事業 30,713千円 ・デジタル技術を活用した研究開発支援 60,230千円 ○CAE・MBD・3D金属積層技術活用のための人材育成 ・3D金属積層技術講座 3,300千円 ・デジタルエンジニアリング講座 15,287千円 ※経費内訳はR7年度事業費		
KPI	① 5G適用可能技術導入支援件数（+17件） ② デジタルエンジニア育成関連事業修了者数（+270人） ③ CAE活用企業比率（+252%） ④ 金属積層技術の活用による試作等受託件数（+32件） ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） （評価検証） https://www.pref.gunma.jp/page/608610.html

DSL（デジタルソリューションラボ）を拠点とした支援イメージ



事業概要【eスポーツを活用した産業・地域活性化事業】

申請者	群馬県					初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	261,916千円 (49,940千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	・eスポーツ・イベント関連関連事業者や周辺産業の育成により県内経済の活性化を図る。 ・eスポーツを切り口に、デジタルツールを活用できる人材を育成する。 ・高齢者や障害者福祉への活用により社会参加・活躍の場を作り出す。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	○群馬県発大規模大会の開催 ・実行委員会負担金（運営委託費） 31,040千円 ○群馬県キーコンテンツ確立支援 ・出展料 4,700千円 ○eスポーツ社会人リーグ開催 ・実行委員会負担金（運営委託費） 5,000千円 ○全国eスポーツ実況王決定戦の開催 ・実行委員会負担金（運営委託費） 8,300千円 ○体験会や大会を通じて、高齢者・障害者の社会参加を促進する。 ・福祉×eスポーツ推進事業 400千円 ○高校生対象のeスポーツの実証事業 ・教育的eスポーツの実証事業 500千円						
地域の多様な 主体の参画	eスポーツに取り組む県内事業者及び市町村が県事業に参画して、各々の広報媒体等でPR等を行うことにより、eスポーツの取組を県内横展開を図るとともに、事業参加後の評価・改善プロセスにも参画。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①全国規模の大会・イベントの開催数（+10回） ②群馬県主催等事業の視聴回数（+60,500回） ③eスポーツ活動に取り組む企業数（+22社） ④人材育成数（+1,600人）

事業概要【ぐんまのクリエイティブ拠点化推進】

申請者	群馬県					初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	309,496千円 (84,580千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・次代を牽引する新たな産業として、成長が見込まれ、高い経済効果をもたらすクリエイティブ産業を育成する ・クリエイティブ産業の育成や地域振興に寄与する人材の発掘・育成を行うことで、クリエイティブな人材が集まり、魅力的なコンテンツが次々と創出される群馬県のクリエイティブ拠点化を目指すものである ・県内コンテンツに新しい価値を付加することで、新コンテンツを磨き上げて創出し、県のブランド力を向上させる						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	○クリエイティブ拠点化の推進 世界から才能が集まるクリエイティブ拠点化を実現するため、以下3点の施策を実施 ・クリエイティブ人材の育成 37,056千円 ・クリエイティブ活躍支援 14,524千円 ・デジタルプレゼンテーション 5,000千円 ○クリエイターのアート活動による地域振興 クリエイター（アーティスト）の支援・育成等を通して、アートによる地域振興や地域経済の活性化を図る ・クリエイター（アーティスト）支援 18,000千円 ・メディア芸術を活用したクリエイティブ人材の育成 10,000千円						
地域の多様な 主体の参画	クリエイティブ関連企業は、現場で求める人材等の情報提供や、実践的な人材育成を図るため、セミナー講師等により事業に参画。 産業支援機関は、製造業等事業者が求める人材の意見聴取等を行い、人材育成事業に反映。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①デジタルクリエイティブセンターイベント参加者数（+935人） ②クリエイターデータベース登録者数（+127人） ③メディア芸術を活用したクリエイティブ人材の育成（+2,500人）

事業概要【始動人輩出のための教育イノベーション】

申請者	群馬県、嬭恋村					初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	841,670千円 (180,960千円)
経費の種類	ソフト 事業	✓	拠点整 備事業		インフラ 整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	「STEAM教育」の導入や教育課程外の新たな学びの提供により本県の公教育のアップデートを図るとともに、持続可能な地域を支える人材育成のためのリカレント教育の実施により、『始動人』（＝自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持った人）を育成・発掘する。						
事業概要・ 主な経費	○公教育のアップデートによる若年世代の始動人育成 学習指導要領を踏まえた教育システムから、多様性を重視した人材育成への転換により、若年世代の始動人輩出を目指す。 ・自ら課題を設定し立ち向かう力を養成する場の提供（委託料等）58,662千円 ・課外活動の改革による多様な学びの機会と交流の創出（委託料）20,630千円 ○リカレント層へのアプローチによる現役世代の始動人育成 現役世代のマインドセットの転換に向けて、ロールモデルの発信やカンファレンスの実施を通して「始動」に向けた機運の醸成を図る。 ・始動人育成に向けたマインドセットの転換支援（委託料等）80,000千円 ・官民共創コミュニティの育成（委託料等）14,068千円 ・嬭恋村シティプロモーション（委託料）7,600千円						
地域の多様な 主体の参画	様々な分野の県内事業者が本県独自の教育プログラムの構築に向けて、専門的な知見を提供する。 学識経験者の参画により、国内外の先進事例等を共有し、非認知スキルの評価・育成手法の確立を進める。					KPI	①官民共創コミュニティから生まれた共創の取組件数（+54件） ②地域ICTクラブ等で講座を受講した児童の数（+610人） ③ICTリテラシーが身についたと感じる生徒の割合（+3.5%） ④中高生向け課題解決型学習プログラム修了者（+81人）
※経費内訳はR7年度事業費						※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	

事業概要【自然豊かな県立公園拠点整備【県立赤城公園】】

旧制度（拠点）

申請者	群馬県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	1,078,645千円 (372,645千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ	事業分野	観光分野
目的・効果	「自然」をハブにしたまちづくり拠点として、「赤城ランドステーション」、「大沼（おの）キャンプフィールド」を整備することで、地域観光資源の活用による魅力的な観光地域づくりを進め、観光産業の活性化により、しごとをつくる。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR7年度事業費	現在あるビジターセンターを「赤城ランドステーション」へ更新し、公園利用者が必ず立ち寄るゲートウェイ的施設として生まれ変わらせ、様々な方々が集い交流する場を提供する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 191,144千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備工事費 13,352千円、機械設備工事費 28,704千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【既存設備解体工事】 78,870千円 【外構工事】 59,455千円 【Wi-Fi機器等整備】 1,120千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①赤城ランドステーションの利用者数（+67,000人） ②赤城山における消費額（+11.1億円） ③赤城山への路線バス利用者数（+6,700人） ④大沼キャンプフィールドの宿泊者数（+53,500人）		関連URL (交付金の具体的使途・実施体制) (効果検証) https://www.pref.gunma.jp/page/608610.html



事業概要【ぐんまブランドのワールドワイド推進】

旧制度（推進）

申請者	群馬県ほか2自治体※	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	285,256千円（106,740千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	農林水産分野
目的・効果	・農畜産物の輸出に取り組む生産者の掘り起こし、育成及び支援を一体的に実施する。 ・消費者が県内外で食し触れられる環境をつくり、販売促進・ブランド力の向上を図る。 ・地域ブランド商品の海外への訴求や展開を図る。		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	○人材の育成 ・繊維産業産地活性化推進（補助金）400千円 ・新たに輸出に取り組む生産者・事業者等の育成（補助金等）9,774千円 ○地域商品のブランド確立 ・県産農畜産物ブランド力強化対策 37,320千円 ・有機農産物PR（委託費等）3,636千円 ・産業観光モニターツアー（委託費等）980千円 ・有機農産物の生産・消費拡大 368千円 ○事業の国内外への展開と本県の知名度向上 ・県産農産物等輸出促進（委託費等）33,662千円 ・国際見本市出展支援等（補助金等）12,800千円 ・地場産業販路開拓支援（委託費等）7,800千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①観光入込客数（+15,252人） ②有機JAS認証の取得面積（+74ha） ③地産地消優良店の店舗数増大（+22店舗） ④県産農畜産物等輸出実績（+5.4億円）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） （効果検証） https://www.pref.gunma.jp/page/608610.html

※群馬県、沼田市、昭和村の広域連携事業

事業概要【多様な交流が生み出す地域の活性化】

申請者	群馬県ほか2自治体※					初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	536,027千円 (209,061千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	・誰もが集い、交流し、にぎわいが創出される場所を県庁舎31階に設置し、群馬県の持続的な成長を図る。 ・ローカルビジネスの魅力発信によるシビックプライドの向上、他地域コラボによる関係人口の創出を図る。 ・高度化したメディアミックスによる群馬県の広告宣伝強化により、県ブランドイメージの向上、インバウンドを含む観光客の増加、移住・定住者の増加、県産品の販売額増加等を図る。						
事業概要・ 主な経費	○県庁31階（マルシェ&キッチン）運営 ・管理運営（委託費）31,860千円 ・交流事業（委託費）12,323千円 ○ぐんまちゃんyoutube企画 ・楽曲及び動画制作費（委託費）28,000千円 ・ぐんまちゃんによるイメージアップ 20,000千円 ○広告代理店等の持つ高度なノウハウやコネクションを駆使し、テレビ番組やWeb、雑誌など各種媒体による戦略的な群馬県の広報を行うメディアミックス戦略高度化事業 ・広告代理店等委託（委託料）84,366千円 ・情報発信庁内支援強化、データ分析（委託料）7,742千円 ○群馬県ならではの取組等をニュース素材等として、積極的にメディアに提案し、取材誘致するためのメディア連携推進 ・取材協力費（委託料）等 24,770千円						
地域の多様な 主体の参画	県庁舎31階でマルシェやワークショップ等の様々な交流事業等を仕掛け、参加者同士のコミュニティ形成を行う。 在京メディアとの連携によって、制作サイドが求める情報提供等を行うことで、群馬県のメディア露出機会を増やし、ブランドイメージの向上を図る。					KPI	①一人あたり県民所得（+32.2万円） ②県庁31階来場者数（+50,000人） ③県庁31階から発信される広報の取組件数（+254件） ④県庁31階マルシェ&キッチンへの出店件数（+140件）

※群馬県、桐生市、東吾妻町の広域連携事業

事業概要【文化資源を軸とした観光振興・地域活性化事業】

旧制度（推進）

申請者	群馬県	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	185,403千円（55,082千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・観光客数や消費額、滞在時間、さらに県文化施設観覧者数が減少しており、本県への人の流れの創出が必要。 ・本県文化施設収蔵の文化資源のデジタルアーカイブを活用した展示を実施することでその価値を県内外に発信し、本県への文化芸術の関心度を高める。このことで本県への人の流れを創出し、地域経済、観光、文化の活性化を図る。 ・誰もが気軽に文化芸術に触れられる機会を提供することで、人々の幸福度や健康状態の向上にも寄与する。		
事業概要・ 主な経費	○収蔵品のデジタルアーカイブ化を進め、没入型体験やXR、ホログラム等を用いた多様なデジタル展示を行う。 ・収蔵品のデジタルデータ化（委託費）6,600千円 ・デジタル展示開催費用（委託費）28,050千円 ○県立図書館所蔵の郷土資料、特別文庫デジタル化 ・資料のデジタルデータ化費用（委託費）13,458千円 ○水際対策が緩和され始めている国外からの誘客を狙うため、外国人・留学生向けの学習資料等を導入する。 ・電子書籍の導入費用（使賃料）6,974千円		
KPI	①県内観光入込客数（+30,000人） ②入館者数（近代美術館、館林美術館、歴史博物館、自然史博物館、土屋文明記念文学館、図書館、文書館の計7施設）（+15,000人） ③デジタル展示の観覧者数（+18,000人） ④デジタルアーカイブ化点数（+4,124点）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） （評価検証） https://www.pref.gunma.jp/page/608610.html



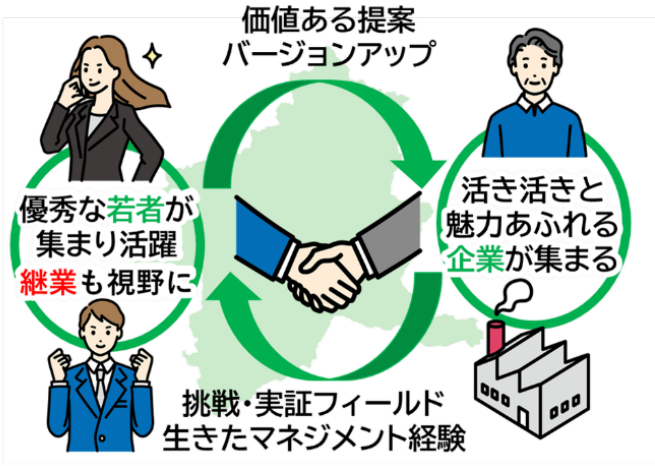
※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【県民総活躍の未来をつくる若手人材の確保・育成事業】

旧制度（推進）

申請者	群馬県、前橋市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	568,816千円（191,257千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・特に若手人材に着目して、群馬県への流入、ポジティブな労働移動等を促し、新たな人材の採用や確保を図る。 ・若者の起業・継業意欲の向上、企業によるリスキリングを促しDX人材を育成することで、これからの県内産業を担う人材の確保を図る。		
事業概要・ 主な経費	地元で働く若手人材を確保するため、起用機会の創出やミスマッチ対策、転職支援を行うとともに、起業が必要とするデジタル人材の確保・育成を行う。 ○未来を担う若手人材と地元企業との交流機会の創出（委託費等）5,455千円 ○採用力・情報発信力の強化（委託費）15,050千円 ○UIターン就職促進（委託費等）26,044千円 ○企業と若者のマッチング支援拠点の運営（委託費等）114,624千円 ○産学官連携による地域人材育成・定着支援（委託費等）800千円 ○若者の起業・継業意欲の向上、課題解決力の育成（委託費）19,000千円 ○DX人材リスキリング推進（委託費）10,284千円		
KPI	①群馬県へのUIターン数（+5,700人） ②本事業における県内企業の人材確保人数（+3,040人） ③県内企業のリスキリング実施率（+60%） ④ぐんまネクストジェネレーター制度を活用した若者と企業とのマッチング成立件数（+15件）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） （評価検証） https://www.pref.gunma.jp/page/608610.html



事業概要【温泉文化の振興を呼び水とした地場産業・地域の活性化】

申請者	群馬県ほか2自治体※					初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	656,092千円 (252,054千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	・ユネスコ無形文化遺産登録への機運醸成とともに、温泉文化の高付加価値化を図る ・関連産業に頼らない地場産業を構築するため、地場製品のブランド力・認知度を向上させ、ファン獲得を図る ・新たな外国人材の受入スキームを構築し、温泉地・地場産業の持続性確保を図る						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録に向けた機運醸成事業の展開、さらに温泉文化の振興を呼び水に、関係人口の増加による地場産業の活力向上や地域の賑わい創出を目指す。 ○温泉文化ユネスコ無形文化遺産登録推進事業 ・機運醸成事業（委託費等）75,674千円 ・温泉文化調査研究（委託費等）2,000千円 ・温泉文化の振興に係る普及啓発事業（負担金等）6,000千円 ○地場産業・地域の活性化事業 ・地域の稼ぐ力向上支援事業（委託費）70,294千円 ・地場産業を支える担い手確保事業（委託費等）9,996千円 ・オリジナルブランド農畜水産物のブランド力向上事業（委託費等）64,090千円 ・温泉地コラボ大規模イベント（委託費）24,000千円						
地域の多様な 主体の参画	業界団体及びメディア、教育機関と連携し、「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けた機運醸成を行う。 海外の現地大学に学生とのマッチング機会を提供してもらい、外国人材に働く場として選ばれる地域となることを目指す。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口（+238人） ②主要温泉地観光入込客数（+1,200千人） ③開催イベント参加者数（+15,200人） ④群馬県内の上州地鶏指定店舗数（+11店舗）

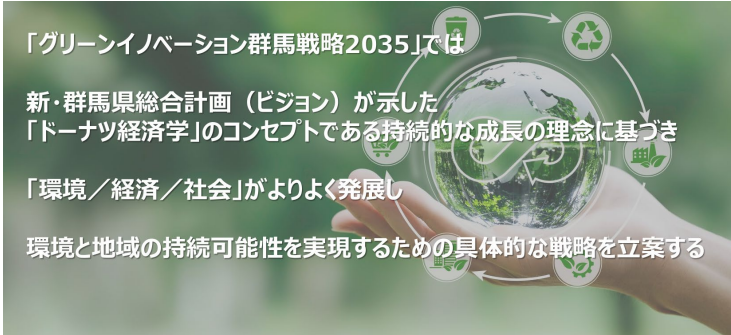
※群馬県、中之条町、鳥取県の広域連携事業

事業概要【データを活用した群馬観光の長期滞在化計画】

申請者	群馬県ほか4自治体※					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	1,346,343千円 (628,129千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	- データ収集・分析によるターゲット層に応じた効果的なプロモーションを実施し、誘客・消費額の増加を図る。 - 長期滞在化につながるコンテンツの創出・発信により、2泊以上の宿泊者数増加を目指す。						
事業概要・ 主な経費	データの収集・分析を行うことで、ターゲット層に応じた効果的なプロモーションを実施し、県内各地域の観光資源・コンテンツの創出及び磨き上げを行う。 ○データに基づく戦略的な誘客 ・DMPによるデータ活用（補助金）等 47,810千円 ○長期滞在化につながるコンテンツ創出・発信 ・リトリートブランド構築（委託料）等 332,034千円 ○エンタメ作品に関連した誘客促進 ・ぐんまちゃんをフックにしたプロモーション（委託料）等 157,618千円 ○多様なニーズを取り込む新市場開発 ・ペットツーリズム推進（委託料）等 33,205千円 ○シームレスな移動を実現する環境整備 ・民間事業者のチャレンジ促進補助（補助金）等 57,462千円						
地域の多様な 主体の参画	県事業で収集・分析したデータ等を県内市町村・各地域の観光協会に提供し、そのデータを活用して効果的な誘客・長期滞在化を図る。 県内及び近隣の誘客コンテンツ活用自治体等との連携により、広域の観光施策を実施する。また、地域やエンタメ作品のファン等との意見交換により、来訪者目線のニーズを吸い上げる。					KPI	①群馬県内における旅行消費額総額（+2,200億円） ②群馬県内における2泊以上の実宿泊者数（+111万人） ③日本人旅行消費額単価（+9,000円） ④外国人旅行消費額単価（+25,000円） ⑤GunMaaS月平均利用件数（+7,500件） ⑥ぐんまフラワーパーク入園者数（+170,078人）

※群馬県、前橋市、館林市、中之条町、片品村の広域連携事業

事業概要【群馬モデルグリーンイノベーション創出プロジェクト】

申請者	群馬県、沼田市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	517,811千円 (160,679千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	・農林業や製造業などの重点分野や、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブといった環境の領域で、地域の課題解決や新たな価値創出につながるローカルイノベーションを促進する。 ・ローカルイノベーションを創出することにより、需要と供給のマッチング等を進め、新たな産業の創出等につなげる。 ・新たな産業の創出等による企業の進出等に伴い、新規雇用数や移住者は増加し、そのことにより、持続可能な地域社会、すなわち「環境／経済／社会」がよりよく発展する自立分散型の社会の実現を目指す。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	○グリーンイノベーション×パブリックリレーションズによる社会変革 グリーンイノベーション創出の素地をつくり、県内で具体的事業を組成する。事業者を県内に呼び込むため、効果的な情報発信を行う。 ・グリーンイノベーション創出のための素地づくり 5,114千円 ・グリーンイノベーション創出の取組 40,056千円 ・攻めの脱炭素経営群馬モデル事業 9,850千円 ・環境パブリックリレーションズ推進 3,971千円 ○重点分野と新たな領域に集中したグリーンイノベーション推進 各分野のグリーンイノベーションを推進する。 ・農業・林業の変革の取組 60,000千円 ・製造業の変革の取組 10,000千円 ・新たな領域でのグリーンイノベーションへの挑戦等 31,688千円						
地域の多様な 主体の参画	県内の産業支援機関と連携してグリーンイノベーションの創出を図るとともに、県内大学と連携し、企業と学生が共創して地域・社会課題の解決に取り組む機会を提供する。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①新規雇用者数（+78人） ②環境負荷低減事業活動計画認定数（+390者） ③素材生産量（+50千m3） ④経営事項にネイチャーポジティブに関する内容が取り入れられている県内企業数（+20社）

事業概要【若者・子育て世代を中心とした「ぐんま暮らし」推進】

申請者	群馬県ほか2自治体※					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	812,294千円 (275,571千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・子育て・生活環境等の情報発信や移住後の暮らし体験事業等により、若者・子育て世代を中心とした移住を促進する。 ・日本人県民・外国人県民の双方が暮らしやすい環境づくりを行い、国籍にかかわらず活躍できる地域の実現を図る。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	若者・子育て世代を主なターゲットとした移住に関する相談会・セミナー等を実施するとともに、移住後の子育て環境や生活環境等の具体的なイメージを持ってもらうため、若者向けの情報発信や、暮らし体験等を実施する。 ○若者・子育て世代をターゲットとした移住促進 ・移住PR・相談拠点設置（委託料）等 77,146千円 ○移住後の「ぐんま暮らし」提案 ・地域の魅力発掘、移住体験事業（委託料等）157,689千円 ○日本人県民と外国人県民との相互理解促進 ・多文化交流イベント開催（委託料）等 13,248千円 ○若者・子育て世代が移住しやすい環境・こどもの居場所づくり ・子どもの居場所づくり・体験創出モデル構築（委託料等）等 27,488千円						
地域の多様な 主体の参画	県内の各観光協会が地域の魅力を発信するとともに、県と市町村が連携して、移住後の暮らしに関する情報等を発信し、移住促進を図る。 地域おこし協力隊や移住コーディネーターが、移住者と地域を繋ぐ役割を担い、移住・定住支援を行う。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①他県から群馬県への移住者数（+391人） ②県及び県内35市町村と連携し移住をテーマに制作したショート動画の総再生回数（+216万回） ③日本人県民と積極的に関わりたいと思う外国人県民の割合（+12%） ④こどもの居場所づくり実施箇所数（+10箇所） ⑤日本語コミュニケーション支援セミナー開催日数（+15日）

事業概要【地域課題解決プロジェクト創出事業】

申請者	群馬県、嬭恋村					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	865,830千円 (227,558千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	・幅広い産業分野におけるイノベーションを加速させることで、新規就労者数の増加を目指す。 ・多様化した地域課題に対して、地域の担い手の発掘や官民の連携強化、スタートアップとの協業により、地域経済の発展、社会基盤の維持を目指す。						
事業概要・ 主な経費	本県の地域経済を維持するため、県内企業の経営力強化を図る取組を実施するとともに、スタートアップとイノベーションの推進を目指し、県民及び企業と多様な主体の担い手を掘り起こす取組を実施する。 【ソフト事業経費】 ○県内企業経営力強化事業 ・県内企業の事業継続力強化（委託料等）等 20,144千円 ○スタートアップ・イノベーション推進事業 ・多様な主体のネットワーク化・マッチング（委託料等）等 120,600千円 ○地域におけるイノベーション創出事業 ・地域課題解決や県内企業とのイノベーションのためのスタートアップ・創業支援事業（委託料）等 70,870千円 【拠点整備事業経費】 ○「NETSUGEN」拡張 ・施設整備 15,944千円					完成イメージ 	
地域の多様な 主体の参画	産官学金のネットワークを活かし、金融機関の資金面での支援とともに、県内大学が保有する研究業績・最新の知見を共有し、事業者による群馬県発の新たなビジネス創出へのチャレンジを支援する。					KPI	①新規雇用者数（+364人） ②共創プロジェクトの創出件数（+42件） ③企業とスタートアップのマッチング数（+160件） ④デジタル技術を活用した新しい地域課題取組件数（+39件）
※経費内訳はR7年度事業費						※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	

事業概要【選ばれる「ぐんまブランド」育成プロジェクト】

申請者	群馬県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	1,842,743千円 (1,038,328千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	農林水産分野
目的・効果	・担い手不足や稼ぐ力不足といった農業分野の課題解決による持続可能な農業の基盤構築と発展を目指す。 ・いちごの試験研究に関連する施設を整備し、技術開発や実技研修を通じて生産者の経営安定に寄与する。						
事業概要・ 主な経費	担い手不足と稼ぐ力の不足という農業の課題解決に向け、担い手の育成・支援や新技術の導入、企業参入の促進、高付加価値化を進め、農業の持続可能な基盤構築と生産者の経営安定化を図る。 【ソフト事業経費】 ○担い手の確保・生産体制の整備（委託料・補助金等）48,016千円 ○新技術による生産性向上とブランド化（委託料等）115,784千円 ○PR・販売促進（委託料等）28,368千円 ○ニーズ研究・調査（委託料）9,700千円 ○群馬版スーパーフード及び農産物粉末の分析・開発（機器購入）12,948千円 ○こんにやく需給安定対策（補助金）16,200千円 ○スマート農業人材育成推進（機器購入）1,884千円 【拠点整備事業経費】 ○調査棟兼資材庫 ・施設整備 408,483千円 ○いちご高設栽培ハウス ・施設整備 363,458千円 ○いちご育苗ハウス ・施設整備 33,487千円						
地域の多様な 主体の参画	農業関連団体が、県と関係機関や地域農業者との橋渡し役を担い、栽培技術や改良品種の普及促進、就農者向け支援等、に県と一体的に取り組む。 県内大学と連携し、農産物のスーパーフード化等の付加価値を高める共同研究・試験を行う。						KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値 ①農業産出額（+28億円） ②新規就農者数（45歳未満）（+1,245人） ③群馬県産農畜水産物の消費者認知度（+2.80%） ④施設園芸における環境制御技術導入農家数（+70戸） ⑤スマート農業技術等に関する新技術開発（+17件）

事業概要【養蚕農家を支える技術の再構築と新しい展開】

申請者	群馬県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	1,220,356千円 (78,752千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	農林水産分野
目的・効果	・蚕糸絹業を維持・発展させていくため、繭、生糸、絹製品が一貫して群馬県内で生産された県産シルク製品の付加価値を高めて需要喚起を図る。 ・蚕種の増産と高品質化を図り、安定的に農家に供給する体制を整える。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	群馬県の蚕糸絹業の維持発展を目指し、県産シルク製品の付加価値向上、新市場開拓、技術継承、蚕種や稚蚕の安定供給体制整備を行う。 【ソフト事業経費】 ○新「ぐんまシルク」製品販売促進事業 ・認定製品の知名度向上事業（委託料）171千円 ○猛暑・蚕病対策事業 ・稚蚕飼育指導の経費補助（補助金）等 3,511千円 ○養蚕農家を支える技術の再構築と新しい展開 ・調査研究 等 13,592千円 【拠点整備事業経費】 ○人工飼料育研究棟整備 ・施設整備 30,739千円 ○原蚕種飼育蚕室整備 ・施設整備 30,739千円						
地域の多様な 主体の参画	人工飼料研究にあたり、研究機関が試験の支援を行い、農業団体と原蚕種の飼育や人工飼料育を県と共同で行う。 県内大学と連携して、シルクの繊維以外の利活用を開拓する。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①農業産出額（+32億円） ②関連施設観光客数（+43,334人） ③県内繭生産量（+6.9トン） ④「なつこ」飼育量（+46.5万頭） ⑤群馬オリジナル蚕品種普及率（+10%）

事業概要【マス生産施設整備（川場養魚センターおよび箱島養鱒センターの施設改修）】

申請者	群馬県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	335,623千円 (335,623千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフラ 整備事業	事業分野	農林水産分野
目的・効果	・県産ブランド魚「ギンヒカリ」「ハコスチ」「超絶サーモンV3」の安定供給量の増加と品質維持のための施設整備。 ・群馬県養鱒業の持続的発展を図るため、川場養魚センターと箱島養鱒センターの施設を増築・改修することで、品質を維持した生産量を向上し、県産ブランド魚の需要増に対応して地域経済や観光振興につなげる。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	県産ブランド魚「ギンヒカリ」「ハコスチ」「超絶サーモンV3」の安定供給量増加と品質維持を目指し、川場養魚センターと箱島養鱒センターの施設改修・新設による持続可能な生産体制の構築を図る。 【拠点整備事業経費】 ○箱島養鱒センターにふ化場・倉庫・飼育池を整備 ・ふ化場（新築）127,281千円 ・倉庫（新築）74,576千円 ・飼育池（設備整備）21,938千円 ・監視カメラ及び濁度計（備品）29,605千円 ○川場養魚センターに倉庫・採卵場を整備 ・倉庫（新築）33,976千円 ・採卵場（模様替え）15,584千円 ・監視カメラ及び濁度計（備品）32,663千円						
地域の多様な 主体の参画	大学から防疫対策等の助言や新たな疾病等の情報提供を受け、養鱒業者と連携して県産ブランド魚の種苗を育成する。 関係市町村においても、県産ブランド魚を観光資源としてPRし、海なし県ならではの水産振興を図る。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①マス類の出荷額（+17,450万円） ②ブランド魚の出荷額（+15,108万円） ③ブランド魚の種卵供給量（+412,000粒） ④上野村漁協冬季ハコスチ釣り場の利用者数（+500人）

事業概要【デジタル・クリエイティブ産業エコシステム構築に向けた未来投資】

申請者	群馬県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	467,550千円 (67,550千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・デジタルクリエイティブを学ぶ子どもたちが大学生世代以上になってもさらに専門的に地域で学び続けることができる新たな人材育成機関を開設し、一気通貫の人材育成体制を構築することで、群馬県経済をけん引するデジタル・クリエイティブ産業のエコシステム構築を目指す。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【ソフト事業経費】 ○新規人材育成機関構想検討（委託費）67,550千円 大学生以上を対象とした新たな人材育成機関開設に向けた将来構想を検討するとともに、幅広い関係者と連携したパイロット事業を実施する。 ・企業のニーズ調査、先進事例調査、有識者ヒアリング等 ・先進的な企業、教育機関と連携したパイロット事業					 Film, Drama Animation Game	
地域の多様な 主体の参画	新たな人材育成機関の開設にあたり、クリエイティブ関連企業が、現場で求める人材の情報提供や実践的な人材育成への助言等を行う。併せて、県内大学・専門学校と新たな教育機会の提供に関して連携を図り、人材育成体制を構築する。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①県内出身大学生等のUターン就職率（+8%） ②「新規人材育成機関」受講者のうちクリエイティブ産業就業者数（+170人） ③「新規人材育成機関」受講者のうち意識に変化があった受講者割合（+90%） ④「新規人材育成機関」受講者数（+400人） ⑤連携企業・教育機関等の数（+10団体）

事業概要【前橋市高校生学習室を核とした若者定住促進事業～「リンクまえばし」プロジェクト～】

旧制度（推進）

申請者	群馬県前橋市	初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	121,979千円（23,481千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	- 登録制学習スペースを設置し、高校生に学びの場を提供することで学力向上と前橋駅前の活性化を図る - 相談、情報提供、仲間づくり、社会参加を通じて自立心や地元愛を醸成し、高校卒業後に途絶えがちな市とのかかわりを継続させる - 地元定着やUターン就職の促進を図り、将来の前橋市を担う人材育成と地元企業の活性化を推進する		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 学習室を設置・運営することにより、高校生のための自主的な学びの場を提供することで進学や就職等の実現への一助とする。また、主体性や郷土愛を醸成し、地元定着やUターンの促進を図る。また、青少年（児童・生徒・学生）を対象とし、若者が主体的に取り組める内容の事業を行い、主体性や郷土愛を醸成し、地元定着やUターンの促進を図る。 【主な経費】 自主的な学びの場を提供することで進学や就職等の実現への一助とする学習室の運営委託 - 学習室運営事業（委託料等） 21,997千円 故郷を愛する心の育みにつながる「自然」「歴史」「文化」「食」等をテーマとした体験プログラムの実施 - 青少年体験・チャレンジ活動事業（委託料等） 1,484千円		
KPI	①学習室利用者数（延べ人数）（+36,000人） ②ジョブセンターまえばし利用登録者の市内事業所就職者数（+2,750人） ③情報受信登録者数（+2,000人） ④学習室利用登録者の地域活動参加者数（+40人）		（交付金の具体的使途・実施体制） （効果検証） 関連URL https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/seisaku/seisakusuishin/gyomu/5/2/3255.html

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【地域産業全体の生産性向上とDXを推進する先端IT人材育成事業】旧制度（推進）

申請者	群馬県前橋市	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	180,830千円（33,406千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	・事業者のマインドセットの変革として、DXの推進体制づくりにより新しい挑戦を促し、挑戦を継続できる環境を整備 ・「デジタル技術等の導入を通じた業務変革の推進」により、市内事業者のDX推進をソフトハードの両面からサポート ・「先端IT分野を軸とした創業支援事業」によりデジタル技術等の急激な技術革新に柔軟に対応できる新たな産業を生み出し、既存産業とのマッチングによる新たな価値の創造		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 セミナー・事例研究会の開催及び参加事業者への訪問など、専門家派遣を実施し、DX推進体制に不可欠なマインドセットを高める。また、既存事業者とスタートアップが相互のシーズ・ニーズを共有する仕組みを設け、ビジネスマッチングを実施する。 【主な経費】 ソフト・ハード両面からのDX推進 ・ソフト：御用聞き型業務改善サポート事業（委託料）4,000千円 ・ハード：DX推進補助金（補助金）20,000千円 先端IT分野を軸とした新産業育成とマッチングシステムの構築 ・前橋市創業センターにおけるセミナー（委託料）4,536千円 ・創業支援塾＋起業家交流会（委託料）550千円 ・短期集中プログラム専門家謝金（委託料）1,320千円 ・マッチング支援事業（負担金、消耗品、郵送費）3,000千円		
※経費内訳はR7年度事業費			
KPI	①デジタル技術の活用等により生産性が向上した事業者数（+262.5社） ②改善活動のハンズオン支援を受け生産性が向上したことを、アンケート調査により確認できた事業者数（+70社） ③創業支援による創業実現率（+5%） ④ビジネスマッチング事業参加者数（+550人）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） （効果検証） https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/seisaku/seisakusuishi/n/gyomu/5/2/3255.html
※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値			

事業概要【デジタル共生社会に向けた地域デジタル環境整備事業】

申請者	群馬県前橋市					初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	171,868千円 (28,086千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	・地域小売店や中小企業におけるDXの推進する ・地域団体のためのデジタル環境整備する ・各小売店舗や地域団体にアクセスすることになる「市民の抱えるデジタルデバйд解消」に取り組む						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市民ボランティアを養成し、地域のデジタルデバйд解消を支援する。地域拠点にタブレットを貸与し、タブレット活用の促進と利活用方法の高度化を図り、将来的なコミュニティビジネスの萌芽を育む。また、市民向けにデジタルデバйдの解消を目的としたICTツール講座を開催する。 【ソフト事業経費】 ○デジタルサポーター事業 (1) まえばしデジタルサポーター事業運営委託費 11,000千円 ○地域デジタル拠点整備事業 (1) タブレット通信料(自治会284台+市民協働課24台)7,086千円 (2) タブレット管理費(284自治会分) 3,408千円 (3) 市内16公民館用情報関連消耗品 1,092千円 (4) 老人福祉センター7か所wi-fi賃借料 500千円 ○市民向けデジタルデバйд (DD) 解消事業 (1) ICTツール講座委託料 5,000千円						
地域の多様な 主体の参画	民間NPO団体にデジタルサポーター運営事業を委託し、地域小売店や商店街、自治会等へのサポーター派遣やDX相談を実施する。 市内284自治会へのタブレット配備し地域ー地域間のDX化を図る。 市内大学、商工会議所や地元ICT企業から現場の意見を吸い上げ、改善にいい向け協議し、事業内容へ反映する。					KPI	※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値 ①デジタル庁LWC指標の「暮らしやすさ」指標のうち、市民のデジタル生活を測定するための「デジタル生活指数」(客観指標) (+66) ②前橋デジタルサポーター (DS) の登録者数 (+450人) ③デジタルサポーター (DS) による講習参加者数 (+5,000人) ④デジタルよろず相談所での相談件数/悩み解消件数 (+1,000人)

事業概要【交流人口増加のための中心市街地等活用事業】

申請者	群馬県前橋市					初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	313,000千円 (134,500千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	「インバウンド」「回遊性」等の視点で、より多くの人を呼び込み、長期滞在させることで消費を促し、中心市街地を活性化させる - 来訪者への魅力訴求として、アーバンデザインのビジョンに沿ったデザイン性をまちなかにおいて高いレベルで実現する - 起業希望者、新規イベント主催者など新たなまちの担い手をトータルでサポートし、地域を担う人材が育つ仕組みを構築 - 外国人観光客を取り込むための受入環境整備						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 アーバンデザインの街並みを活用するとともに、街中にデザイン性が高いコンテンツを設置することで、回遊性を高める。また宿泊者増加に向けて長期滞在が必要な大規模イベントの開催等を行うほか、外国人観光客の受入環境整備を行う。 【ソフト事業経費】 長期滞在化・国内外誘客事業 ・回遊性向上事業（会場運営費、イベント）21,500千円 ・夜間コンテンツ創出事業（委託料、会場運営費）28,000千円 ・まちのプレーヤー強化、新コンテンツ開発事業（委託料、会場運営費）10,000千円 まちの担い手サポート・外国人受入環境整備事業 ・情報発信・相談支援事業（委託料）40,000千円 ・まちなかイベント支援事業 20,000千円 アーバンデザインに基づく景観形成事業 ・付加価値創出店舗改修支援事業（補助金） 15,000千円					前橋市アーバンデザインの取組みについて 	
地域の多様な 主体の参画	まちづくり公社が事業推進役を担い、中心商店街やまえばしガレリア等の地元事業者が各事業の広報等に積極的に参画するほか、展示の舞台や出演者となって魅力的な楽しい地域を表現する。新たなメディアである地元根付いたインフルエンサーや中心市街地に拠点がおりその情報発信に強みのあるまえばしCITYエフエム、前橋新聞めぶが各事業の広報等に積極的に参画する。					KPI	①前橋市内の宿泊者数（+243,882人） ②中心市街地での県外からの来場者の満足度（+90%） ③中心市街地街の付加価値の高い店舗の新規出店や改修に対する相談件数（+20件） ④中心市街地の新規大型イベントの来場者数（+65,000人）

事業概要【デジタル技術活用と地域事業者販路拡大による地域ブランディング事業】

旧制度（推進）

申請者	群馬県前橋市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	100,500千円(33,500千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	- 市内事業者の販路拡大・認知度向上を行うため、EC事業への参入の後押しをすることで地域産業の魅力発信に繋げる - 市内支援機関（商工会議所・商工会）とともに支援することで持続的な経営指導による事業継続を支援する - 地域ブランド認証の地域地場産品の広報活動や市内事業者の新製品や技術開発に取り組む事業者の補助を行い、地域資源の付加価値向上を支援する		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ECサイトへの出店により、既存の取引先以外へ販路拡大と地域地場産品（地域ブランド地域ブランド）などの広報の場として活用するほか、経験豊富な専門家や組織が中小企業をサポートし、事業成長、発展を促進し、地域ブランドの認知度向上が図られることで、地域産業の魅力を高める。 【ソフト事業経費】 デジタル技術の活用支援 ・オンラインアンテナショップ事業（委託料）10,000千円 競争力の強化支援 ・伴走型販路開拓支援事業（補助金）20,000千円 ・地域ブランド認証品の販路拡大事業（補助金）500千円 ・新製品・新技術開発事業（補助金）3,000千円 ※経費内訳はR7年度事業費 デジタル技術活用と地域事業者販路拡大による地域ブランディング事業 前橋市 産業政策課 現在、少額でのキャッシュレス決済や商品の買取型だけでなくサブスクリプションといったサービス契約、複数の他人と共有するシェアリングなど販売事業について、オンライン店舗へ購買行動が変化している。市内事業者の販路拡大・認知向上を図るため、EC事業への参入の後押しをすることで地域産業の魅力発信に繋げる。また市内小規模事業者の販路開拓に向けた経営計画などについて市内支援機関（商工会議所・商工会）とともに支援することで持続的な経営指導による事業継続を図るとともに、地域ブランド認証の地域地場産品の広報活動や市内の新製品や技術開発に取り組む事業者の補助を行い地域資源の付加価値の向上を支援する 4つの「支援」 支援① EC事業への参入支援 WEBアンテナショップを開設し、市内事業者からの地場産品の登録、販売を行う。EC事業、販売戦略に知見のある事業者にショップ運営事業を委託し、ウェブ販売の知識が不足している地域事業者の支援を行い、ウェブ販売の体験を進める体制を整備する。 支援② 伴走支援型 経営計画支援 地域支援機関である商工会議所・少く買いの支援により、財務状況を含めた自社分析と経営計画の策定・見直しを行い、3年間の経営計画の取り組みのうえ、販路拡大を目的とした取り組みを補助などにより支援する。また随時フォローアップによる、継続的な支援を行う。 機能③ 伴走支援 前橋市地域ブランドの認証を受けた事業者が、赤城の恵ブランド新商品に係る各種事業を実施した場合にその経費の補助を行うことで、赤城の恵ブランド認証品の販売促進を図る。 支援④ 新製品開発 支援 市内小規模事業者・中小企業者による、新製品・新技術開発費の一部を補助することにより、企業内の開発意欲の増進と地域産業及び地域経済の活性化を促す 支援体制 伴走支援 継続フォローアップ 共同研究 産学連携 市内事業者 商工会議所 商工会 学研機関 総合支援 市 連携協力 連携協力		
KPI	①地域における新規雇用者数（+930人） ②フォローアップ事業者のうち売り上げが向上した事業者の割合（+125%） ③オンラインアンテナショップ参加件数（+240件） ④地域ブランド売上高向上商品の割合（+156%） ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値		
関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） （効果検証） https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/seisaku/seisakusuishi/n/qyomu/5/2/3255.html		

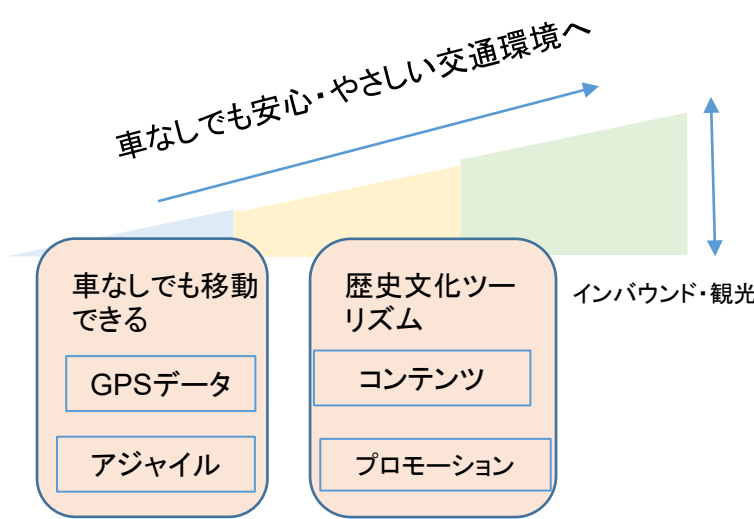
事業概要【データドリブン経営構築及び前橋・赤城観光ブランド構築による観光振興事業】

申請者	群馬県前橋市					初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	76,626千円 (25,742千円)
経費の種類	ソフト 事業	✓	拠点整 備事業		インフラ 整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	- データに基づいたマーケティングを主体とする経営体制を整え、効率的かつ効果的な観光を活用した地域経営を実践する - 取得したデータを基に構築する前橋・赤城の観光ブランドを地域全体で一体となって推進する - 選ばれる観光地・稼ぐ力をもつ地域を目指し、交流人口や観光消費額を増加させ「持続可能な観光を活用した地域経営体制」を築く						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 データドリブン経営の手法を取り入れ、DMOがデータ活用やデジタル化によって得られた成果を民間の事業者等とも共有することで、観光のDX化を推進する。 また、データを活用し、赤城山における観光ブランドの前橋・赤城観光ブランドの構築、普及・定着を図る。 【ソフト事業経費】 DMOデータドリブン経営体制構築を起点とした観光DX化の推進 - データドリブン計画策定（委託料、会議開催経費）3,400千円 - システム導入・維持管理（使用料）1,240千円 - データ収集（使用料）1,300千円 - 研修（研修・視察費）360千円 - 推進人件費（コンベンション協会人件費）4,600千円 前橋・赤城の観光ブランド創出・定着促進 - ブランド推進体制構築（推進主体組成・活動経費）790千円 - 伴走支援委託費（委託費）1,000千円 - コンテンツ造成（試作・実証経費）2,320千円 - プロモーション戦略実行（広報・PR経費）3,200千円 - 管理経費及び人件費（コンベンション協会人件費）7,532千円						
地域の多様な 主体の参画	候補DMOである前橋観光コンベンション協会が企画・立案を行うとともに、地域事業者やステークホルダー間の連携体制を構築する。地域事業者やステークホルダーは商品提供及び、商品やプロモーション面の磨き上げを行う。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+750百万円） ②データ活用協定事業者数（+60件） ③本事業で造成したコンテンツへの参加人数（ウェルネスツーリズム＋赤城山ファンづくり）（+650人） ④作成したプロモーション動画の総再生回数（+16万回）

事業概要【誰もが居場所と役割を持つコミュニティ創出事業】

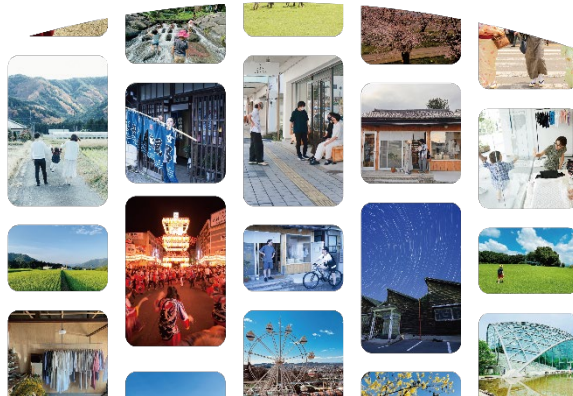
申請者	群馬県前橋市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	97,238千円 (32,896千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	- 未来の世代のためのインクルーシブな価値観づくり、現役世代の健康づくり、だれもが自分なりの担い手になれるコミュニティ活性化に取り組むことにより、誰もが個性と多様性を尊重され、希望に応じて能力を発揮することで、居場所と役割を持って繋がり、健康でアクティブに活躍できる地域を実現する。 「誰もが居場所と役割を持つコミュニティ」が形成されることにより、転入先として選ばれる地域となる。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 多様な労働力の確保のため、障害の有無にかかわらず希望に合わせた労働参加や労働力のボリュームゾーンが、健康を維持しながら長く活躍できるように取り組む。また、だれもがデジタル空間で安全に繋がりがあえ、意見を表明することでまちづくりへの参画を図る。 【主な経費】 インクルーシブな価値観づくり事業 ・多様性社会実現に向けた調査及びワークショップの実施10,000千円 ・インクルーシブ理解醸成イベント事業・1日間1,500千円 ・実践型障害者社会参加連携プロジェクト2,800千円 ・インクルーシブ推進カフェ等居場所運営事業12,000千円 現役世代の健康づくり事業 ・健康情報の一元提供・冊子作成370千円 ・健康運動指導士による健康教室での運動指導2,201千円 だれもが自分なりの担い手になれるコミュニティ活性化（デジタル版人の流れ）事業 ・デジタルマーケティング調査の実施4,000千円 ・well-being市民アンケート調査25千円					めぶく。= Well-being インクルーシブな価値観 現役世代の健康づくり コミュニティ活性化 誰もが住みやすい共創のまちづくり	
地域の多様な 主体の参画	市内福祉事業所が、インクルーシブ推進イベントや各種プロジェクトにおいて連携して取り組む。商工会議所は、産業界の立場から現場の意見を吸い上げ、事業内容の反映に取り組む。前橋の地域若者会議は地域住民・若者当事者の立場から意見を出し、事業内容への反映に取り組む。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①年間転入者数（+30人） ②インクルーシブ推進カフェ利用者満足度（+1.5%） ③国保運動習慣（20～64歳男性）（+0.45%） ④国保運動習慣（20～64歳女性）（+0.81%） ⑤めぶくコミュニティ投稿数（+60件）

事業概要【端末交通と歴史資源を活用した海外誘客促進事業】

申請者	群馬県前橋市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	53,413千円 (24,173千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	・シェアサイクル事業の枠組みを用いて、新たにGPSを搭載したIoTユニットを導入することで、「車を使わない移動の実態」を明らかにし、インバウンドの受入れ環境を創出する。 ・歴史・文化観光の意識が高まる中、（仮称）前橋空襲と復興資料館を開設し、人の流れを呼び込むプロモーションに取り組む。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 GPS搭載IoTユニットで自転車の走行軌跡を観測・分析し、「車を使わない移動の実態」を明らかにし、基幹交通とのかみ合わせを改善し、マイカーに頼らない市街地交通環境を実現する。また、前橋の歴史遺産を集めた「（仮称）前橋空襲と復興資料館」を開設・運営し、歴史的背景からも相乗効果の高い日本文化を題材とした事業により、誘客、インバウンド宿泊数を向上させる。 【ソフト事業経費】 端末交通運営事業 ・データ分析費1,220千円 歴史文化コンテンツ運営事業 ・人件費 9,900千円 ・イベント開催（委託料）12,553千円 ・運営事務費 500千円 ※経費内訳はR7年度事業費						
地域の多様な 主体の参画	TOPICほか事業者・大学と連携し、自転車の走行記録のデータ分析を行う。群馬県はグンマースを通じて連携し、交通の最適化に取り組む。また、群馬大学と連携し、歴史文化に関する学識の立場の意見を吸い上げ、事業内容の反映に取り組む。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+900百万円） ②上毛電鉄並びにバス利用者数（+297千人） ③シェアサイクル登録者数（+15,000人） ④登録相談会開催数（+60回）

事業概要【官民連携の伴走型サポートによる移住・定住促進センター設置事業】

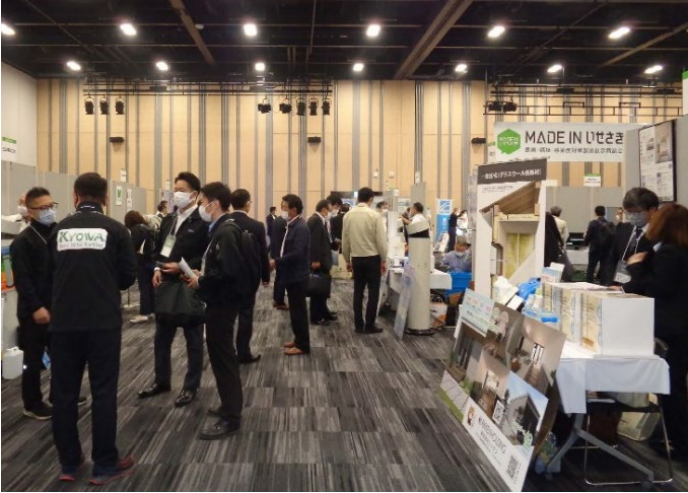
旧制度（推進）

申請者	群馬県桐生市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R9年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	104,364千円（24,093千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・移住・定住に関する伴走型のワンストップ相談体制を官民連携の下で整備する。 ・空き店舗を活用した起業・店舗開業を促進し、まちのにぎわいを創出する。 ・魅力発信・イベントなどを様々な団体と連携して実施することで、郷土愛の醸成を図るとともに、桐生市とのつながりを創出する。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 店舗開業・起業・就農希望者をメインターゲットとして、移住に関わる相談を一元的に対応するワンストップ窓口を設置するとともに、それらの情報を効果的に発信する。 【主な経費】 移住コーディネーターによる伴走型の相談対応等を実施 ・ワンストップ窓口運営事業（委託）12,400千円 ポータルサイトを通じた移住・定住支援策や魅力発信を行うとともに、移住関心層に効果的な広告企業と連携した情報発信を実施 ・ワンストップ情報発信事業（委託）6,215千円 デザイン設計したメインターゲットの移住促進策やリノベ専門家を帯同した空き店舗見学会などのリアルイベント、オンラインセミナー、親子体験モデルイベント等を実施 ・イベント等開催事業（委託）5,478千円	 ゆるやかに、つながり ほどよく、おすばれる 	
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①社会増減数（+470人） ②本事業によって店舗開業・起業・就農を伴う移住をした人数（+20人） ③移住・定住に関する相談件数（+202件） ④ポータルサイトへのアクセス数（+53,000回）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.city.kiryu.lg.jp/shisei/keikaku/1018137/jinko/1024260.html （効果検証） https://www.city.kiryu.lg.jp/shisei/keikaku/1018137/jinko/1016065/1019714/index.html

事業概要【まちなか創業とにぎわい創出を核とした官民連携による持続的経済活力向上プロジェクト】

申請者	群馬県伊勢崎市					初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	104,133千円 (21,645千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	まちなか（伊勢崎駅及び境町駅周辺地区）における創業や、小規模事業者の事業拡大、賑わいの創出を支援することによって、まちなかの経済活力や賑わいの向上を推進し、新たな雇用の創出や地域経済全体の活性化を目指す。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 まちなかで創業する者に対して補助金を交付することにより、創業を促進する。また、まちなかの活性化に効果が高いと判断した事業に対して助成を行い、意欲ある既存の小規模事業者を支援する。さらに、若い世代を中心とした市民等と連携し、にぎわい創出のイベントを発展、拡充させる。 【ソフト事業経費】 まちなかで創業する者に、事業所開設に係る経費等を補助 ・まちなか創業促進サポート補助金（ソフト事業分）2,250千円 ・まちなか創業促進サポート補助金（ハード事業分）2,250千円 まちなか創業者向けのワークショップ等を支援 ・ワークショップ開催（委託料）1,210千円 ・空き家対策事業 615千円 まちなかで事業を営む小規模事業者へ、事業拡大に係る経費を補助 ・小規模事業者サポート補助金（ソフト事業分）2,000千円 ・小規模事業者サポート補助金（ハード事業分）2,000千円 まちなかの賑わい創出のためのイベントを開催 ・イベント開催経費 7,220千円 ・賑わい創出の実施団体に対する開催経費補助 3,000千円						
地域の多様な 主体の参画	商工会議所や農協と市内金融機関等と連携し、創業者の経営・店舗確保のサポートや、イベント等の企画・運営に取り組み、まちなかでの創業を支援する。 また、事業の効果検証においては、区長会やPTA联合会等から地域住民の意見の吸い上げるとともに、県振興局や学識経験者等からの意見聴取を行い、事業内容への反映に取り組む。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①まちなかで新たに創業した事業者の数（+19社） ②まちなかワークショップ参加者数（+300人） ③伊勢崎駅周辺で開催されるイベントの来場者数（+26,300人）

事業概要【Made in いせさき しごと創生プロジェクト】

申請者	群馬県伊勢崎市					初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	100,254千円 (20,500千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	市内の製造業事業者による地域産業の活性化、付加価値の向上のため、販路拡大への支援や新技術及び新製品の開発を支援することで、製造業の収益を拡大させ、人口増加のための安定した雇用の創出を図る。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 市内企業の販路拡大及び企業間マッチング支援のため、ビジネスマッチングイベントを開催する。併せて、市内商工団体と連携し、市のPRを兼ねた地域活性化イベントを開催する。また、市内企業の販路拡大・情報発信のため展示商談会を開催するとともに、県内自治体、金融機関、商工団体が共同開催する展示会に、共同開催市として参加する。 【ソフト事業経費】 市内企業の技術展と地域活性化イベントの開催 ・企業技術展開催委託料 3,500千円 ・地域活性化イベント開催費用 1,200千円 ・市内企業認知度向上業務 4,290千円 市内企業の展示商談会の開催 ・会場設営委託料 400千円 県内自治体、金融機関、商工団体との展示会の共同開催と、市内企業による展示会開催及び出展への補助 ・共同開催負担金 200千円 ・展示会開催及び出展事業費補助 500千円 県外展示会への出展 ・出展ブース借上料 9,212千円					 展示商談会の様子	
地域の多様な 主体の参画	商工会議所等と連携しビジネスマッチングイベント等の開催・出展を行うとともに、市内の高校や大学と連携し、学生のイベントへの参加促進を図る。 また、事業の効果検証においては、区長会やPTA連合会等から地域住民の意見の吸い上げるとともに、県振興局や学識経験者等からの意見聴取を行い、事業内容への反映に取り組む。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①製造品出荷額等（+1,562億円） ②市内・県内展示会での新規契約数（+34件） ③県外展示会での新規契約数（+20件） ④移住相談会等の参加者数（+69人）

事業概要【eスポーツ等デジタルコンテンツを活用した交流人口拡大事業】

申請者	群馬県伊勢崎市					初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	71,796千円 (31,318千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	eスポーツを軸としたデジタルコンテンツの活用による観光振興に取り組むことで、既存の観光資源をブラッシュアップし、新たな客層を獲得するための訴求力を高めるとともに、新たな観光資源となるコンテンツを生み出し、交流人口の拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 eスポーツを軸としたデジタルコンテンツの活用による観光振興に取り組むことで、新たな観光資源となるコンテンツを生み出し、交流人口の拡大を図る。 具体的には、華蔵寺公園をはじめとする観光の拠点や鉄道利用者の観光の玄関口である伊勢崎駅、市内の大型商業施設、既存の観光イベントなどにおいてeスポーツ等のデジタルコンテンツを活用したイベントを開催する。 【ソフト事業経費】 デジタルコンテンツを活用した観光振興事業 ・VRハングライダー体験会開催委託料 2,442千円 ・デジタルコンテンツ等を活用したシティプロモーション経費 9,128千円 ・マンガコンテンツを活用したイベント委託料 4,950千円 ・eスポーツイベント開催委託料 3,850千円 ・eスポーツ大規模大会開催負担金 4,000千円 ・まちづくりコンテスト開催委託料 1,100千円 ・水生植物園ライトアップの実施に係る設計業務委託料・設置工事費 3,500千円 ・デジタルサイネージ購入費 1,240千円					<pre>graph TD; Admin[行政] -- "PR・周知啓発" --> Exchange[交流人口]; Stakeholders[事業実施事業者関係団体] -- "eスポーツの大会やイベント等の開催" --> Exchange; Stakeholders -- "知見やノウハウ" --> Admin; Admin <--> "負担金等" Stakeholders; subgraph "事業推進主体"; Admin; Stakeholders; end; Center((デジタルコンテンツを活用した交流人口の拡大による地方創生));</pre>	
地域の多様な 主体の参画	(一社) ISESAKI eSPORTS協会や商工会議所等と連携し、デジタルを活用したイベントやシティプロモーションを実施する。 また、事業の効果検証においては、区長会やPTA連合会等から地域住民の意見の吸い上げるとともに、県振興局や学識経験者等からの意見聴取を行い、事業内容への反映に取り組む。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の観光消費額 (+100,743,000円) ②eスポーツ大規模大会の年間来場・視聴者数 (+1100人) ③eスポーツイベントの年間開催回数 (+11回)

事業概要【プラネタリウムを活用した地域活性化『里沼から宇宙へ』】

申請者	群馬県館林市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	75,902千円 (2,614千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	・向井千秋記念子ども科学館が有する全国有数規模のプラネタリウムのポテンシャルを最大限に活用し、周辺施設と連携した観光振興による地域創生に取り組む。「館林市と言えば宇宙・科学」のブランディングによって地域への愛着と誇りを一層持てるまちを実現し、市内はもとより市外からも多くの人を呼び込み更なる交流を生み出す。 ・地域にかかわる多様な主体が連携してまちづくりに参画することで、人口減少社会においても活力と賑わいのあるまちを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 向井千秋記念子ども科学館に最新のデジタルプラネタリウム機器を導入し、本市の日本遺産「里沼」や子ども向けの投影番組などのオリジナルコンテンツを制作・提供するほか、各世代のニーズに合わせた番組の投影、プラネタリウムを活用した新たなイベントを開催し、交流人口・関係人口の拡大を図る。 【ソフト事業経費】 ○デジタルプラネタリウム機器導入事業 ・プラネタリウム機器賃借料 2,284千円（令和8年3月分） システム・プロジェクター・音響等一式（保守点検を含む） ・オリジナルコンテンツの制作 330千円 日本遺産「里沼」に関するオリジナルコンテンツの撮影等 ・広報・PR事業						
地域の多様な 主体の参画	・日本遺産「里沼」の構成文化財の所有者や関連企業、小中学校理科部会等と連携してオリジナルのプラネタリウム番組を作成するとともに、地域住民（ボランティアや地元の高校生等）の意見の吸い上げ、群馬県や周辺施設との連携により、その反映に取り組む。 ・市有宿泊施設と連携した夜間観察会を実施したり、プラネタリウムを講演会やライブコンサート、商品発表会等に有償貸与できる仕組みを作ることで、新たな利用者層の拡大につなげる。					KPI	①年間観光消費額（+ 10,713千円） ②向井千秋記念子ども科学館プラネタリウム観覧者数（+ 2,615人） ③周辺施設等（向井千秋記念子ども科学館、館林市第二資料館、田山花袋記念文学館、つつじ映像学習館）の入館者数（+ 4,772人） ④学習投影番組及びプラネタリウム制作講座の満足度調査（+ 93%）

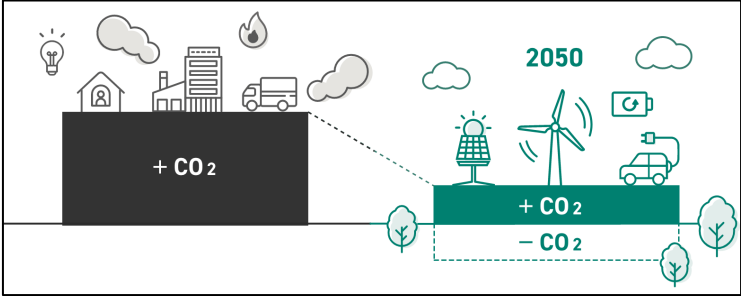
※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【若者の移住を促し企業の人材確保を支援する取組】

旧制度（推進）

申請者	群馬県富岡市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	20,515千円（7,540千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・移住に関する積極的な情報発信、地域における移住者の受け入れ体制整備、企業情報発信を通じて本市への関心を高めることにより、都市部からのUIターンによる移住者の獲得及び地域への定着を図る。 ・市内企業の持続的な経営と市内経済の活性化、地域内経済循環の更なる向上を図り、もって本市総合戦略で掲げる「市民と来訪者を惹きつける まち・ひと・しごとづくり」の実現を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 移住情報誌や動画により、移住関連情報の積極的な発信に加え、企業や地域社会との連携を研修会や交流会の開催により進め、移住者を受け入れる体制づくりに総合的に取り組む。また、市内企業を紹介する事業を実施し、市内企業への就職を促すことで、地域経済の活性化と地域内経済循環の更なる向上を図る。 【主な経費】 ○移住情報発信力強化 ・地域情報誌作成支援（委託料）477千円 ・PR動画制作協力者謝金（委託料）114千円 ○移住者の受け入れ体制整備 ・移住者の地域での活躍に向けた研修（委託料）1,470千円 ・官民連携事業支援委託（委託料）1,678千円 ・移住交流会支援委託及び協力者謝金（委託料）1,515千円 ○企業情報発信 ・市内企業紹介パンフレット作成（委託料）2,286千円		
KPI	①住民基本台帳による転入者数……（+36人） ②移住者交流会参加者数……（+60人） ③市内企業への若者新規就職者数…（+30人） ④移住者相談会相談件数……（+30人）		
関連URL	（効果検証） https://www.city.tomioka.lg.jp/www/contents/1480920210288/index.html		

申請者	群馬県富岡市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	23,098千円（7,904千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	・中小企業が脱炭素の取組を積極的に進めることで、企業イメージの向上、競争力の強化、取引先の拡大などにつなげ、人、もの、情報が集積するまちとなり、市全体の活性化を図る。 ・売上高等の向上により、新たな雇用を生み、地域経済および若者の流入によるまちの活性化を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 脱炭素セミナー等の開催により市民や地域企業が脱炭素に向けて何ができるか知り、考えるための事業を行う。また、CO2排出量可視化システム導入支援、GXアドバイザー派遣や省エネ設備導入補助金により、事業者が自社の二酸化炭素排出量を測り、把握し、改善するための取組を促進する。 【主な経費】 ・CO2排出量可視化システム導入支援事業（委託料） 1,018千円 ・GXアドバイザー派遣事業（委託料）4,587千円 ・脱炭素セミナー等開催負担金（委託料）99千円 ・省エネ設備導入促進支援補助金（補助金）2,200千円  出典：環境省ホームページ「脱炭素ポータル」		
KPI	※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値 ①地域における新規雇用者数（+15人） ②本事業参加企業における売上高の伸び率（+1.5%） ③開催した環境経営セミナー・環境啓発セミナーへの参加者数（+90人） ④本事業参加企業におけるエネルギー使用量（▲15%）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.city.tomioka.lg.jp/www/content/s/1681782065775/index.html （効果検証） https://www.city.tomioka.lg.jp/www/content/s/1480920210288/index.html

事業概要【滞在型宿泊施設整備事業（国民宿舎サンレイク草木のリニューアル工事）】

申請者	群馬県みどり市					初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	2,161,398千円 (876,348千円)
経費の種類	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	建設から40年以上が経ち老朽化による維持経費負担増に加えて、新型コロナを契機とする観光ニーズの変化に対応できない施設構造などの問題から利用者が減少している「国民宿舎サンレイク草木」をリニューアルすることで、観光誘客を推進し、交流人口や関係人口を創出するとともに周辺アクティビティや施設、小売店への経済的な波及効果を図り、エリアとしての魅力向上と地域の活性化を目指す。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 官民連携型の観光拠点を整備することにより、新たな滞在型の観光マーケットを創出することに加えて、拠点をベースとした体験型コンテンツの充実を図ることなどにより、観光消費の促進を図るとともに、本市東町地域の新しいブランディングの目玉として発信することで観光客の集客を目指す。 【拠点整備事業経費】 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 建築工事524,656千円、電気設備工事38,819千円、機械設備工事124,740千円、共通仮設・一般管理費等117,984千円 ○施設整備等（用地造成）の内容 本体外構40,304千円、共通仮設・一般管理費等29,845千円					 	
地域の多様な 主体の参画	自然を活かした宿泊施設の運営実績が数多くある管理運営者が、事業の中心的役割を担い、周辺のカヌーやSUP事業者と連携したプラン造成により、本施設の集客だけでなく周辺事業者への波及効果も見込む。 隣接する桐生市と日光市とは、2市を結めた広域観光をPRし、実効性を高めていく。 さらに、自治会・周辺事業者との連携により、イベント等への協力及び周知、また施設を中心とした地域で稼ぐ仕組みづくりを推進するとともに、イベント実施により地域の一体感醸成を図る。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①市内観光消費額（+268,000,000円） ②施設利用者数（+25,000人） ③施設運営収支（+17,845,000円） ④施設を利用した、市民協働によるイベント及び周辺事業者との連携イベント（プラン造成含む）の開催（+40回）

事業概要【岩宿博物館リニューアルと映画プロモーションによる岩宿遺跡活性化事業】

申請者	群馬県みどり市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	767,924千円 (700,774千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	- 岩宿博物館をリニューアルし、体験型展示を取り入れて岩宿時代を身近に楽しく学べる展示に改修し、岩宿博物館を周遊観光の拠点施設に位置付ける。 - 一般の人が「岩宿遺跡」にもっと興味を持てるよう、岩宿遺跡の発見者である相澤忠洋氏を題材とした映画を制作してファンの裾野を広げ、映画ファンの聖地巡礼を促すロケツーリズム推進により観光消費の拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 常設展示室の改修や体験型コンテンツ制作等による岩宿博物館のリニューアル整備を行うほか、遺跡を発見した相沢忠洋氏の映画を作製して岩宿遺跡をPRする事業や、博物館リニューアル時に当地域に誘導できる映像コンテンツを制作・活用することで、観光振興、関係人口の増加等を通じて地域の活性化を図る。また、地元企業による岩宿遺跡にちなんだ特産品等の開発を支援し、地域の活性化を図る。 【ソフト事業経費】 ○プロモーション映画制作費：101,650千円 映画制作費（委託料）、映画プロモーション費（広告料） ○映像コンテンツ制作事業：4,942千円 映像制作費（委託料）、編集用ソフト・機材購入費 ○特産品開発事業：1,200千円 地元企業に対する補助金 【拠点整備事業経費】 ○岩宿博物館リニューアル：592,982千円 施設整備工事、設備整備、外構整備等						
地域の多様な 主体の参画	産官学金労言の関係者で推進委員会を組織し、岩宿博物館友の会や観光ガイドの会も参画して、岩宿遺跡や映画ファン向けの聖地巡礼ツアーを企画してリニューアル後の博物館へ人を呼び込む。 商工会や観光協会はロケツーリズムで稼ぐ主体として特産品開発や新メニュー考案を担う。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①市内観光消費額（+277,200千円） ②岩宿博物館の総収入額（+5,900,000円） ③プロモーション映画の観客動員数（+35,000人） ④主催体験学習イベント参加者数（+1,000人） ⑤岩宿・映画関連の商品・メニュー販売額（+14,000千円）

事業概要【移住から定住へ 社会減の抑制のための定住促進事業】

旧制度（推進）

申請者	群馬県上野村	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	38,750千円（12,650千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	- ポータルサイトの開設やSNS上で交流サイトを作ること、ミスマッチを削減し、安心して住める環境の整備を行うことでより定住に結びつける。 - アンケート実施による変化の動向を捉え、ニーズの傾向を予測し、的確で効果的な情報発信を可能にし、ミスマッチを減少させることで、本村へ興味を持つ移住希望者を増加させ、さらには定住と結びつける。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 ○村内外の若い世代へ本村の認知度及びイメージ調査等を継続して実施し、真に必要な情報等のさらなる洗い出しを行う。 ○定住のミスマッチを防止するため、情報発信力の強化を図る。 ○移住前から本村へ定住を視野に入れてもらうための移住体験ツアーメニュー開発・運営を行う。 ※参加者の旅費、宿泊料、飲食料は対象外 ○村に愛着や誇りがもてるために、むらの歴史や伝統、文化等に触れる機会の創出を図る。 【ソフト事業経費】 ・イメージ等調査委託費 3,300千円 ・移住定住のためのコンテンツ作成業務（委託費）4,400千円 ・移住定住体験ツアーメニュー開発・運営業務（委託費）4,400千円 ・歴史・文化等の伝承のための講演会等開催業務（消耗品・謝礼等）550千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①本村へのUJIターン数（+60人） ②社会減の減少数（+12人） ③交流サイト利用者数（+80人） ④移住定住体験ツアー参加者数（+50人）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） http://www.uenomura.jp/admin/politics/kouhyou.html （効果検証） http://www.uenomura.jp/admin/politics/kouhyou.html

事業概要【極いのぶた推進事業】

申請者	群馬県上野村						初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	647,900千円 (178,726千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフラ 整備事業		事業分野	農林水産分野
目的・効果	・村の特産品であるいのぶたのブランド化を推進し、施設改修を進めることにより生産頭数の増加を図る。 ・豚熱対策を徹底し、同時に肥育環境を整えることで生産体制の安定化と職場の働きやすさの向上を図る。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 生産と改修を並行して実施する。既存施設を解体し、外構工事を実施して、新管理棟及びコンポストを整備する。同時に冷凍冷蔵庫を整備して出荷体制の安定化を図る。 【拠点整備事業経費】 いのぶたファームの施設改修（全体） 178,726千円 ・管理棟 32,200千円 ・冷凍冷蔵庫 88,501千円 ・解体、外構 16,095千円 ・コンポスト 41,930千円 ※経費内訳はR7年度事業費							
地域の多様な 主体の参画	CATVや上野村産業情報センターと連携した商品の魅力発信を推進する。 区長会、教育委員会、農協などと連携して、多方面からの意見を集約し、事業内容への反映に取り組む。						KPI	①地域内の畜産物出荷額の増加（+9,400万円） ②いのぶた事故率の減少（▲2%） ③いのぶた及び豚の出荷頭数の増加（+650頭） ④いのぶたの取引件数の増加（+50件）
							※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	

事業概要【アウトドアパーク推進プロジェクト】

旧制度（推進）

申請者	群馬県神流町	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	89,967千円（6,800千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・地域資源を活用した新たな客層の誘致を行う ・ワーケーションなど長期的に滞在できる環境整備や自然体験型の観光を充実させる ・観光誘客と交流人口の増加を図り、観光振興の強化と雇用創出、仕事創生へと発展する経済の好循環の実現に向け、地域産業の活性化を目指す		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 みかば高原オートキャンプ場東側斜面を整備したアウトドアパークについて、更なる観光誘客と交流人口の増加につなげるためWEBサイトの見直しなどPRを強化する。また、自然を生かした体験や関係人口、地域住民を巻き込んだイベントを開催し、誘客促進を図る。 【主な経費】 広報宣伝事業 ・WEBサイトの見直し（委託料）100千円 ・PRパンフレットの制作（委託料）200千円 誘客対策事業 ・地域活性化事業（委託料）2,500千円 ・自然体験創出事業（委託料）3,500千円 ・開発コンテンツ等を活用したイベント開催（委託料）500千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①町内観光消費額（+125,000千円） ②コンテンツ開発数（+11件） ③キャンプ場利用者数（+1,800人） ④ホームページ閲覧数（+16,400人）	関連URL	令和7年7月公表予定

事業概要【下仁田町街なか活性化事業拠点整備つどいの場創出事業（下仁田駅周辺）】

申請者	群馬県下仁田町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	281,845千円 (281,845千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフ 整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	・R4策定の「下仁田町街なか活性化事業基本計画」を実現するため、下仁田駅周辺を往来する人々の「つどいの場」を整備することで、暮らす人、来る人、関わる人がワクワクする気持ちを持って過ごせる空間を創出し、観光業をはじめとした経済の好循環構築を加速させる。 ・日常的に人が集まる「つどいの場」の創出、観光地等の紹介や誘導による地域活性化の促進、また地域間交流を生む場として町民と観光客がつながる機会を提供することで、交流人口の増加を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 町民や観光客の「つどいの場」やイベント等が開催できる「交流の場」となる施設を整備し、施設内のデジタルサイネージ等の情報提供設備による観光地等へ誘導を行うことで、地域活性化を促す。 大正時代の「デキ1型電気機関車」の展示を中心とした鉄道広場を整備し、鉄道文化や地域の魅力を発信することで、施設への誘客を図る。 【拠点整備事業経費】 ○下仁田町つどいのステーション(仮称)を整備 ・本体施設整備工事 227,669千円 ・鉄道広場及び外構整備等工事 38,176千円 ・情報提供デジタル設備費 5,000千円 ・コンテンツ制作費 11,000千円						
地域の多様な 主体の参画	公共交通事業者と連携事業を実施し、本施設及び観光地等への誘客につなげる。また、本施設の維持管理を協同で行う。 地域公共交通の結節点としての役割を担い、近隣自治体と維持管理費について分担する。 住民組織や商工会等のイベント開催、及び効果検証組織への参画。					KPI	①観光消費額 (+515,000千円) ②観光入込客数 (+180,000人) ③施設利用者数 (+6,600人)

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最
終事業年度までの
「KPI増加分の累計」
の目標値

事業概要【孺恋ウェルネスリトリート事業】

旧制度（推進）

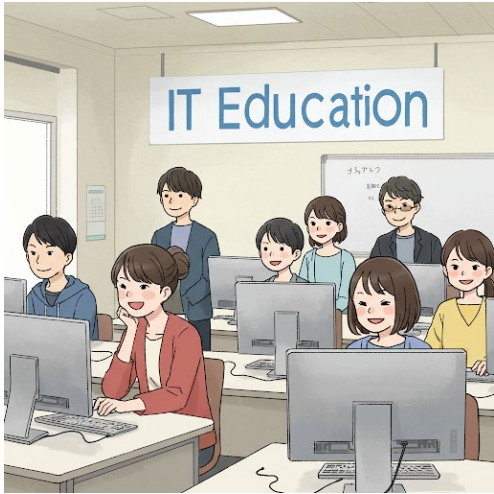
申請者	群馬県孺恋村	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	53,500千円（37,800千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	- 交流を増進させ地域の活性化、移住の促進を行う。交流イベントの実施や、ウェルネスリトリートを推進する人材を育成すると共に活躍する拠点を整備し、事業効果の増進を図る。 - ウェルネスツーリズムを本村における新たな観光資源として位置づけ、関係機関と協力し誘客を行い地域の活性化を図る。		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 運動・健康をキーワードにしたイベントやプログラムを充実させ、村民及び長期滞在者に加え近隣町村等との交流の活性化に繋げると共に、ウェルネスツーリズムによる観光客の増加に向けた取り組みを行う。 また、事業を継続するための人材育成にも取り組んでいく。 【主な経費】 ○村民と長期滞在者等との交流イベント実施費用 5,300千円 ○村民と長期滞在者等との交流イベントPR費用 900千円 ○ウェルネスツーリズムプラン造成費用 1,000千円 ○ウェルネスリトリートPRイベント実施費用 5,400千円 ○ウェルネスリトリート人材の育成費用 1,200千円 ○運動交流イベント実施に関する施設改修費用 20,000千円 ○運動交流イベント実施に関する備品購入費 4,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①UIターン数（+10人） ②年間参加者数（+140人） ③村外参加者数（+30人） ④観光客入込数（+2,100人）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.vill.tsumagoi.gunma.jp （効果検証） https://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/contents/1676254604955/index.html



事業概要【みなかみユネスコエコパークにおけるおもちゃ美術館創設による木工木育推進事業】

申請者	群馬県みなかみ町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	944,300千円 (173,800千円)
経費の種類	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	農林水産分野
目的・効果	・利用頻度の低下した公共施設を「おもちゃ美術館」と「木工房」に改修し、幅広い世代が木に触れ親しむ木育や地域の木材の利用を促進する。また、観光施設としての魅力も高め観光消費額の増加も目指す。 ・子育て世代が気軽に交流できる場とすることで安心して子育てできる環境を構築するとともに、高齢者がスタッフとして活躍することで生きがいの創出や世代を超えた交流を促進する。						
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 利用頻度の低下した公共施設を、幅広い世代が木に触れ親しむ木育や地域の木材の利用を促進する「おもちゃ美術館」と「木工房」に改修する。 【拠点整備事業経費】 ○遊休公共施設を「おもちゃ美術館」に改修 ・実施設計 55,000千円 ○遊休公共施設を「木工房」に改修 ・改修工事費 58,850千円 ・電気設備工事 11,000千円 ・給排水設備工事 6,600千円 ・空調設備工事 11,000千円 ・消防設備工事 3,300千円 ・実施設計費 5,500千円 ・設計管理費 3,300千円 ・共通仮設・現場管理・一般管理費 19,250千円					 「おもちゃ美術館」改修イメージパース  「おもちゃ美術館」改修予定施設  「木工房」改修予定施設	
地域の多様な主体の参画	地域住民が実践する自伐型林業や日本自然保護協会と連携したネイチャーポジティブの取組により搬出された町内産材を活用し、林業振興や木育を推進する。また、観光協会や地元事業者等とも連携し利用者の増加等につなげる。周辺自治体や地元行政区、社会福祉協議会等とも連携し子育て支援や高齢者の活躍によるフレイル予防にも取り組む。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①農業所得者の総所得金額（+1億500万円） ②観光消費額（+60億円） ③施設の年間利用者数（+10万人） ④里山などの整備や野生動物・植物の保全活動をしている町民の割合（+16.6ポイント） ⑤木材ステーションにおける木材出荷額（+306万円） ⑥おもちゃ学芸員登録者数（+150人）

事業概要【明和町イノベーションアカデミー～未来を創るIT人材を育てる～】

申請者	群馬県明和町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	87,400千円 (25,000千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	- 課外事業でのIT教育を実施し、プログラミングなどを通して論理的思考力を高める。 - 独自の教育モデルに魅力を感じた子育て世代の移住定住を促進する。 - 生涯学習事業としてのリスキリングを促し、IT、金融、語学に関するリテラシーを高める。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 - 小・中学生向けにプログラミング教室を行います。入門編からはじめ、より高度な内容へと高めていきます。 - IT教育を学んだ住民、中高生がプログラミングを活用した地域の課題解決策を発表し共有するとともに、アプリの作成や事業化を検討します。 - 若者から高齢者まで全世代に向けたリスキリングを可能とする講座を実施します。 【ソフト事業経費】 ○児童・生徒・学生向けの高度IT教育 ・プログラミング講座(委託費、借上料、備品費、消耗品等)：9,100千円 ・講座受講用HP構築(委託費)：2,000千円 ・出前講座などのICT推進に資する講演会(委託費)：1,000千円 ・視察バス借上料：500千円 - 町内外へのプロモーション費用(広告宣伝費)：5,000千円 ○地域IT人材育成推進協議会設立 ・協議会運営(委員報酬、消耗品)：400千円 ○全世代・町内企業向けのリスキリング事業 ・リテラシー向上に向けた各種講座の実施(委託料)：2,000千円 ・語学学習アプリの活用(委託料)：5,000千円						
地域の多様な 主体の参画	企業、大学、地元高校と共同でカリキュラムの作成やIT教育の効果検証を行っていく。					KPI	①UIターン数(+55人) ②プログラミングコンテスト等での入賞回数(+6回) ③IT知識を活用して課題解決に取り組んだ事業アイデアの数(+8個) ④首都圏における明和町の知名度(+8%) ⑤マイナンバーカードを活用した各種申請書のコンビニ交付率(+5%) ⑥まちが開催したIT・リスキリング講座の受講者数(延べ人数)(+765人)

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値